

「リスクコミュニケーション意見交換会」アンケートの集計結果

参加者数：245 全回答数：189

問1 ご自身について、ご解答ください。

消費者	食品関連 事業者	食品関連 団体	在京外国 公館	研究機関	行政関係	その他
28 (14.8%)	69 (36.5%)	45 (23.8%)	3 (1.6%)	4 (2.0%)	21 (11.1%)	21 (11.1%)

【その他】

農薬メーカー(9) 農業従事者(2) 消費者団体 獣医 情報会社
シンクタンク

問2 本日の意見交換会は、何からお知りになりましたか。

1) 食品安全委員会のホームページ	49 (25.9%)
2) 食品安全委員会からのご案内資料	55 (29.1%)
3) 関係団体からのご案内資料	85 (45.0%)
4) 知人からの紹介	8 (4.2%)
5) その他	0

問3 基調講演についてお伺いします。講演内容について、十分に理解することができましたか。

理解できた	だいたい理解できた	あまりできなかった	できなかった
58 (30.7%)	122 (64.6%)	8 (4.2%)	1 (0.5%)

追加問3 - 1 (問3で「理解できた」「だいたい理解できた」と回答した方)

内容がわかりやすかったのはなぜですか。当てはまるものは全てご回答ください。

1) 説明が明瞭で的確だった	99
2) 資料内容が平易でわかりやすかった	100
3) 適切な説明時間が確保されていた	16
4) その他	3
(Mr ビリーの話し方がゆっくりでわかりやすかった 二人の内容のハーモニーがうまくとれていた 他)	

追加問3 - 2 (問3で「あまり理解できなかった」「できなかった」と回答した方)

内容がわかりにくかった点はどこですか。当てはまるものは全てご回答ください。

1) 説明に専門用語が多い	5
2) 資料がわかりにくい	2
3) 聞き取りにくい	2
4) 適切な説明時間が確保されていなかった	0

5) その他

3

日本語のスライドの字が多くてみづらい(関澤先生の分)
具体性に欠ける (3)
関澤先生の講演の量が多い
訳が理解しにくい
横文字が多すぎる

問4 パネルディスカッションについてお伺いします。内容について、十分に理解することができましたか。

理解できた	だいたい理解できた	あまりできなかった	できなかった
46 (25.0%)	112 (61.0%)	23 (12.3%)	3 (1.7%)

追加問4-1 (問4で「理解できた」「だいたい理解できた」と回答した方)

内容がわかりやすかったのはなぜですか。当てはまるものは全てご回答ください。

- 1) パネリストの異なる立場での意見を聞くことができた 98
- 2) 説明が明瞭で的確だった 57
- 3) 適切な時間が確保されていた 7
- 4) その他 3

中村先生の説明がわかりやすかった(2)
パネリストの組み合わせがよく、相互に関連・補足的であった。

追加問4-2 (問4で「あまり理解できなかった」「できなかった」と回答した方)

内容がわかりにくかった点はどこですか。当てはまるものは全てご回答ください。

- 1) 説明に専門用語が多い 12
- 2) 聞き取りにくい 7
- 3) 適切な説明時間が確保されていなかった 7
- 4) その他 9

話に具体性が欠ける(3) 争点が不明瞭 (3)
全体として進行が不慣れ (2)
手元に事前に出た質問等があったほうがよかった
質問に対するパネリストの回答が省略されている印象
レジメがほしい

問5 今後、食品安全委員会におけるリスクコミュニケーションとして行ってほしい取り組みは何だと思われますか。当てはまるものを全てお答えください。

- 1) 今回のような意見交換会の積極的な開催 90 (48.1%)
- 2) 食品の安全に関する平易で基礎的な勉強会の開催 71 (37.6%)
- 3) 参加者全てが発言できるような、少人数の座談会の開催 34 (18.0%)
- 4) 各層有識者を交えた、シンポジウムの開催 63 (33.3%)

- | | |
|--------------------------------|------------|
| 5) 消費者、生産者、事業者が意見をいつでも言える窓口の設置 | 85 (45.0%) |
| 6) 地方における意見交換会の開催 | 31 (16.4%) |
| 7) その他 | 3 (1.6%) |

(委員会としての絶対評価 マスメディアへの教育
施策を検討する前に開催する意見を聞く会)

問6 今後の意見交換会で取り上げてほしいテーマは何ですか。当てはまるものを全てお答えください。

- | | |
|------------------------------|------------|
| 1) 残留農薬に関するテーマ | 74 (39.2%) |
| 2) 食品添加物に関するテーマ | 80 (42.3%) |
| 3) 遺伝子組み換えに関するテーマ | 64 (33.4%) |
| 4) 食品中に混入する汚染物質に関するテーマ | 55 (29.1%) |
| 5) 動物用抗菌性物質(いわゆる抗生物質)に関するテーマ | 47 (24.9%) |
| 6) 有害微生物に関するテーマ | 46 (24.3%) |
| 7) 輸入食品に関するテーマ | 85 (45.0%) |
| 8) 健康食品に関するテーマ | 54 (28.6%) |
| 9) 食品表示に関するテーマ | 68 (36.0%) |
| 10) その他 | 11 (5.8%) |

(リスクコミュニケーションに関するテーマ(5)
食の安全に関するテーマ(2)
食のアレルギー 食中毒 食育に関するテーマ(各1))

問7 今回、同時通訳を介しての意見交換会を開催させていただきましたが、このような形式についてご意見・ご感想などございましたら、ご記入ください。また、リスクコミュニケーションに関するご質問・ご意見などございましたら、あわせてご記入ください。

(カッコ内は同様な意見の数)

- ・ 大変勉強になった(8)
- ・ 今後も海外のエキスパートを招いて、先進国の話を聞く機会をつくっていただきたい。(2)
- ・ 多くの国民はまだまだ「食品安全」や「食品行政」に関する知識が不足していると思う。今後もこのような会を開いていただくことで、勉強するよい機会になる。(2)
- ・ 外国の方の貴重な生の声を聞くことができ、とてもよかった。(4)
- ・ USAとEUと両極を講演願いたい。考え方のベースは異なるが、求める食品の安全は同じであるため。
- ・ 最近のEUのリスクコミュニケーションの現状の紹介をしてほしい。
- ・ 外国人を直接入れるより、外国の紹介ができる専門家を入れるスタイルでも十分なのでは？
- ・ 参加者との意見交換の時間が少ない。(5)
- ・ 関係者(農水省)の質問はいかなものか(2)
- ・ ベストな通訳は難しいと感じました。
- ・ リスクコミュニケーションの状況・方法等について掘り下げた勉強会や催し物を開催してほしい。(2)
- ・ 総括・概論的なものは文献が参考になるので、テーマごとに多くの事例を含めた形式のほうがわかりやすい(2)

- ・ もう少し対象を明確に絞ったコミュニケーションの場がほしい。(2)
- ・ 「食の提供者」の自身の参加がもう少し多いほうがいい。
- ・ パネリスト等のメンバーが固定されている。
- ・ 一般消費者の参加がもっと多いとよかった。
- ・ 同時通訳はとてもよかったが、片方から会場の音、片方から通訳の声が聞こえて、私個人としては混乱してしまった。(2)
- ・ 同時通訳はわかりやすかったが、配布資料の翻訳もほしかった (2)
- ・ メディアの扱いが薄いのが不満である。
- ・ 年配にも読みやすい大きな字の配布物があればいい。
- ・ リスクとハザードの区別が不明瞭。農業を例にとってもA D Iまではハザードの範囲内。暴露量を評価してリスクとして評価、公表すべき
- ・ 目標とするリスクコミュニケーションと実際とのギャップが大きいと感じた。
- ・ アセスマネジメントのシステムについてコミュニケーションが必要と感じた。
- ・ どこに何の情報があるのか、という部分にうなずきました。たとえば、バイオテロ法の日本語訳など、タイムリーにweb上に公開されるとうれしいのだが、なかなか実現しない。
- ・ 厚労省・農水省・食品安全委員会のHPをリスクコミュニケーションを意識した構成にしてほしい。(2)
- ・ 人の出入りが多すぎる。
- ・ コミュニケーションは家庭、学校、社会全体の教育が大切。
- ・ リスクコミュニケーションについては、一時も早く事例の積み重ねを行い、そこから日本流のコミュニケーションを見出していく必要があると思う。また、日本におけるリスクコミュニケーションの担い手として、国や自治体の役割をはっきりさせることが大切だ。
- ・ 合意は別として、理解度を増すプロセスが大切とのことですか。最終マネジメントにおいては一定の施策を出さねばなりません。それは、その責任自体がリスクコミュニケーションを期待しつつ判断するというのでしょうか。
- ・ 私は満72歳で栃木県の田舎に育ったが、花粉症、アトピーなどはほとんどみられなかった。子供は50年代から学校で出す食事の残飯が年々増えるばかりでなく、食べ方も知らない子供が増えてきている。魚を給食に出せば必ず耳鼻科行きになり、PTAで大きな問題になる。反面子供たちが残すようなおかずを毎日続けて出すことによって食べられるようになることもある。教育も必要だと思います。
- ・ 消費者・事業者の意見も大事だが、専門家の純粋な判断が確立されるようにすることが必要。専門家間の意見交換を十分に願いたい。
- ・ 農水省はリスクコミュニケーションに熱心だが、食品安全委員会がリスクコミュニケーションの中心的存在だと思うので、引き続きこのような場を設けてください。
- ・ リスクコミュニケーションいわゆる双方向の意見交換し、理解が大変重要ということはよく理解できた。本日の議論を踏まえ、具体的にどんな方法で、Communicationをしていくのかが大変と思われる。国民がいつでも、どこでも情報が入手でき、それに対して自由に意見が言え、それに対する行政、事業者等の対応結果について、これをシステム化して、実施していくことが必要に思う。
- ・ 会場のロビーですが、たばこの煙が充満しています。喫煙室を設けていただきたい。
- ・ テーブルがほしい

- なかなか具体的事項に絞り込んでテーマを設定しにくいリスクコミュニケーションについてのイベントとしてイントロダクションとしてよく網羅されていたのではないかと思います。リスクコミュニケーションの難しいところは、リスクに関心を持って積極的に働きかけをする人々よりも、リスクに無関心な大半の人々に真のリスクが潜んでいる可能性が高いことです。今後どのように潜在するリスクグループの人々とコミュニケーションしていくかも大きな課題だと思うので、委員会をはじめ行政と共に民間企業としても積極的に関心を持っていけるよう働きかけをしていこうと思います。あとリスクコミュニケーション（そもそもこの言葉すらぴんと来ない人はぴんと来る人より少なかったりする）の重要課題はやはり用語を新たに導入しすぎないことです。いくら英語文化が普及してきたといっても、それに基づくカタカナ語はどうしても一般化できない。そのことを忘れないことが重要です。
- 非専門外の人々の理解をえるには、案件の前後の事情、情報を十分提供し、ある程度の理解をしてもらい（これが大前提）当該案件の授否を問うのが筋。従来のような利害当事者間だけでの討議だけではすまなくなっている。根気よく PR することが要。加害者（行政、事業者）と被害者（消費者、国民）との関係の解消が大切
- リスクコミュニケーションについては、一時も早く事例の積み重ねを行い、そこから、日本流のリスクコミュニケーションを見出していく必要があると思います。また、日本におけるリスクコミュニケーションの一端として、国や自治体の役割（位置づけ）をはっきりさせることが大切だと感じます。
- グローバル化、ハイテク化に対して迅速かつ十分なコミュニケーションが可能だろうか。行政はどのような方向を打ち出すのか期待しています。
- リスクコミュニケーションが機能するためには、冷静なマスメディアの姿勢が不可欠。また、ズサンな研究をもとに、不安をあおり、コストを度外視してのゼロリスクを要求する学者も問題。
- 会議等の記録は速やかに公開してほしい。
- 日本は様々な国から食品を輸入しているので、他の国の法律の整合性のとれた食品の規格基準を見直すしかないと思う。
- 安全はサイエンスの問題だが、安心は心理の問題である。神田さんの意見は、後者に比重があったと思われ、他の方の議論とすれちがいがあったと思う。